

第8回福井県嶺南地域流域検討会の審議内容のご紹介

①第7回流域検討会における質問事項の回答

早瀬川水系

第7回流域検討会で委員から出された早瀬川水系の治水計画や環境などに関する質問事項に対して、河川管理者より回答が行われました。

委員からの主な発言

1. 早瀬川水系の治水の検討は、三方五湖があるため通常とは異なる方法が必要ではないか。特に平面2次元的な検討が必要と考えられるが、具体的検討方法について教えてほしい。

⇒【河川管理者】

河道部分は不等流計算で、湖部分は平面タンクモデルなどの手法で検討しています。これらのモデルは、浸水の痕跡水位により検証を行っています。

2. 三方湖の水鳥が少なくなっているのは自然減少によるものだろうか。人為的な整備（護岸整備等）との関係があるのではないだろうか。

水鳥が少なくなったということから、生息環境悪化が進んだと考えられる。魚を食べる鳥はあまり減っていないが、干潟で底生生物を餌とする水鳥が減少しているのが問題だと思う。

3. 浦見川の上流と下流とでは自治体が異なるが、美浜町側における三方五湖の治水対策に対する論議がどうなっているのか教えてほしい。

②佐分利川水系の河川整備について

佐分利川水系の河川整備として、佐分利川・大津呂川の治水・利水・環境に関する基本事項について、河川管理者より説明が行われました。

また、両河川の現状と課題を踏まえた当面の対応についても説明が行われました。

- 佐分利川・大津呂川に関する基本事項 <①治水、②利水、③環境>
- 両河川の現状と課題、当面の対応

委員からの主な発言

1. 佐分利川の基本高水の設定では、過去の主要な6出水を計画規模の降雨量まで引き伸ばして、それぞれ高水流量を算出し、その中で一番大きなもの(第1位)を採用しているが、今後取り扱う他の河川でも同様に第1位を採用するのか教えて欲しい。河川計画でカバー率の問題と呼ばれているようだ。

⇒【河川管理者】

佐分利川では洪水流量の観測データが少なく、流量確率手法による基本高水の設定が困難

なことから、降雨確率による高水流量の第1位を採用しました。ただし、流域面積が大きい水系では、雨の降り方に地域的な偏りが生じること等があり、2位、3位の洪水の採用が妥当と判断することもあります。

2. 基本高水の設定について、対象降雨群の内、第何位を採用するかは流量確率手法を用いた別の検討から決めることが望ましいと思う。観測データが十分でないこと、解析に手間がかかること、河川法改正前の治水計画との整合性などから、佐分利川については、今回河川管理者から提案された基本高水ピーク流量 $420\text{m}^3/\text{s}$ でよいのではないかと思う。また、本川の計画高水流量については、流れの解析結果から全量河道分担でよいのではないかと思う。

3. 正常流量の検討について、流量は対象魚種を案のように決めればこの程度になるのだと思うが、段差のある箇所では魚類の遡上・降下の妨げとなっている場合が多くあるようだ。今後、魚道の整備についても考えるべきだろう。

4. 現地視察の時に猛禽類の飛翔が見られたが、環境調査の状況等について教えて欲しい。

⇒【河川管理者】

平成7年度に環境調査を行い、猛禽類の飛翔を確認しています。今年度から猛禽類を含め、動植物等の追加調査を行っています。環境保全対策については、国の環境部会等にも図りながら検討していきたいと思えます。

5. かんがい用水の取水先や町の水道需要予測など、大津呂生活貯水池に係る水利用について、説明して欲しい。

6. 県内に同規模の生活貯水池があるのか教えて欲しい。また、上手く機能しているか教えて欲しい。

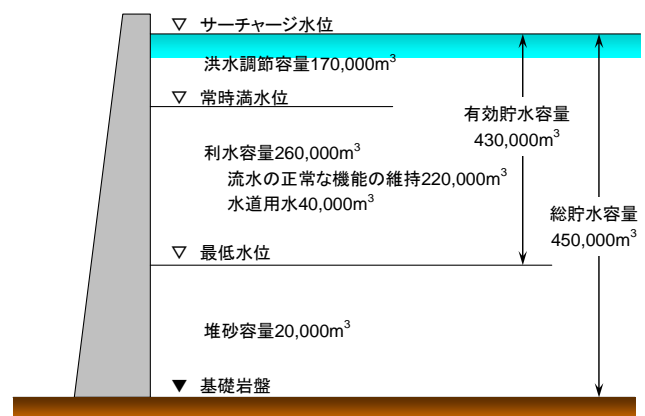
⇒【河川管理者】

県内の例としては永平寺ダムがあります。完成後、3年ほど経過していますが、機能面で特に不都合は生じていません。

7. 大津呂生活貯水池の操作・運用について、貯水池の機能や流況、貯水量のシミュレーション結果等についても資料を出して欲しい。

8. 他の嶺南地域と比較し、渇水危険度が高い流域だと思いますが、大津呂生活貯水池の費用対効果や考えられる代替案等について、次回、検討を行えるような資料を出してほしい。

次回の検討会では、今回出された意見や質問に対する回答について河川管理者が説明し、引き続き、佐分利川水系河川整備計画（案）及び早瀬川水系河川整備計画（案）策定に向けた審議を行うこととなりました。



大津呂生活貯水池の容量配分図